

⑦【学びによるまちづくり

をめざした取組み】

市民参画で生涯学習を推進し、ひのっ子が育ち日野人が活躍するまちづくりが求められている。

そのために、地域の人材を活用し、生涯学習を推進するための組織や子育て支援のためのしくみをつくり、総合的な学習環境を充実する。

(主な事業名)

- ◎ 「土曜のひろば」(地域教育力活性化事業)開催(文スポ)
 - ・ 地域教育推進・研究・普及(セ)
 - ・ ひの21世紀みらい塾(文スポ)
- ◎ 文化財整備(文スポ)
 - ・ 資料館収蔵資料の修復と保存・データ化(資料館)
 - ・ 「第11回ひのアートフェスティバル」(公)
 - ・ 「伊藤整」展開催(図)
- ◎ 特別展「幻の真慈悲寺を追う展」開催(資料館)
 - ・ 企画展「ふるさと日野の自然とくらし展」開催(資料館)
- ◎ 幻の真慈悲寺調査(資料館)
- ◎ 生まれ変わり物語ー勝五郎伝承を探る(資料館)
 - ・ 多摩島しょ子ども体験塾
- ◎ 市民会館文化事業協会の充実
 - ・ 日野市文化協会の支援
 - ・ 「みんなのはらっぱ」開催(万願寺、南平交流センター)(文スポ)
 - ・ 子育て支援者養成講座の開催(文スポ)
 - ・ 子育て支援講演会の開催(文スポ)
 - ・ 子育て講座の開催(公)
 - ・ 家庭教育学級(文スポ)
 - ・ 高校生奨学金事業の拡充(庶)

◎は評価対象事業

文スポ・・・文化スポーツ課

セ・・・教育センター

資料館・・・郷土資料館

公・・・中央公民館

図・・・図書館

庶・・・庶務課

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	来場者数 1,110人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	1,714,737
事業の名称		成人式経費	
事業の目的・将来目標			
式典を厳粛に受け止め新成人としての自覚を再確認できる場とすること			
事業の概要			
新成人を祝し、新成人者に20歳の自覚を促すための式典を行う。			
事業の成果			
1,110人 [*] (52.09%)の参加を得ている。			

事業の課題					
式典の方法について検討する部分がある。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	0	15	A
新成人の成人としての自覚を持たせるため継続していく事業である。内容の検討も考慮に入れながらより良い成人式としていく。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	参加者数 2,150人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	5,026,859
事業の名称	学校5日制対応事業経費 (◎「土曜のひろば」(地域教育力活性化事業)開催)		
事業の目的・将来目標			
子どもたちの居場所づくり・多様な分野の体験活動を目的として実施。 市民、市民団体や企業と連携した委託・補助事業を推進していく。			
事業の概要			
学校5日制に伴い、子どもたちがさまざまな人達とふれあいながら、多様な分野の体験活動をする場を提供する。[実行委員会形式:英語コース、科学コース、体育コース及び補助事業:土曜の広場]			
事業の成果			
科学コース(全17回延べ432人)、英語コース(全10回延べ145人)、体育コース(7会場延べ19回374人)、土曜のひろば(4コース(前後期計23回)延べ1,199人)			

事業の課題					
市民団体を中心にした事業展開を推し進めるための仕組みづくりを行い、市民、市民団体が独立して運営できる体制づくりを支援する必要がある。「学校5日制」としての子どもの居場所作り事業の必要性を見直す時期にきている。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	4	4	0	12	B
市民・市民活動団体・企業の活動としても定着させていく必要があり、事業の目的としても拡充を目指すべき事業である。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	アンケート調査への回答数 452人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	4,227,540
事業の名称		健康日野人推進事業経費	
事業の目的・将来目標			
スポーツ振興計画の中間検証として市民に対するアンケート調査を行い、計画見直しの検討資料とする。 また、スポーツ実践率向上のため、日野市体育指導委員会が考案したハンドロウルの普及を行うとともに、AED講習会を実施し、スポーツ施設利用者等の技能取得を図る。 平成22年度までにスポーツ実践率を成人50%、児童・生徒70%となることを目指す。 実践率向上の手段として、子どもから高齢者まで楽しめるハンドロウルの普及を行うとともに、AEDの普及を図る。			
事業の概要			
市民の健康増進のため、スポーツ実践率の向上を図る。 平成16年度に策定した日野市スポーツ振興計画の中間検証を行うとともに、日野市体育指導委員会が考案したニュースポーツ「ハンドロウル」の普及を行い、スポーツ実践率の向上に寄与する。 また、市民が安心してスポーツできる環境づくりの一環として、AEDの講習会を実施する。			
事業の成果			
市民1,000人に対し、郵送による配布回収形式のアンケート調査を行い、452件の回答が得られ、スポーツ実践率が56.2%に向上していることが確認できた。 また、日野市体育指導委員会で、ハンドロウル普及についての検討を年度を通し行った。			

事業の課題					
スポーツをしていない市民に対する、スポーツ実践率向上のためのアプローチの検討。 ハンドロウル普及のための場所、指導者の確保。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	3	3	15	A
平成19年度は、アンケート調査によりスポーツ実践率の向上が確認できた。引き続き実践率が向上するよう、ハンドロウルの普及を始め、だれもが安心してスポーツができる環境づくりに努めていく。 ハンドロウルについては、日野市体育指導委員会が考案したニュースポーツで、20年9月に実施する体育指導員第6ブロック研修会で、実践披露をし普及を図る。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	4	3	0	11	B
市民の健康増進を図るため、目標値を定め、スポーツ実践率の向上を目指す。ニュースポーツをその一つの入口として考え、普及に努める。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	2	2	0	9	C
地域スポーツクラブの設立・運営やハンドロウル等のニュースポーツの普及活動を通じたスポーツ実践率向上の取り組みの必要性は認めるが、事業のPR手法をもっと工夫していくべきではないか。					

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	文化財講座・展示・講師派遣 20件 補助金交付団体数 3団体
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	9,449,531
事業の名称	文化財保護経費 (◎文化財整備)		
事業の目的・将来目標			
・文化財調査を充実するとともに、文化財説明看板の設置等文化財を整備し、文化財の保存と活用を図る。 ・展示や講師派遣、冊子の刊行などのほか、市のイベントに情報やノウハウを提供することで、文化財の普及・啓発を図る。 ・郷土芸能保持団体の実情に即した、効率的な補助金の交付方法を検討する。 市内の有形・無形の文化財を保存し、関連した情報の蓄積を図る。事業の成果は展示、刊行物の発行、講演会、見学会、講師派遣等の事業によって市民に還元するとともに、庁内での共有化を図り、日野市のまちづくりの基礎的な情報としての活用を図る。			
事業の概要			
①市内の文化財に関する調査・保存活動を行い、その成果を活用し、市民への還元を図る。 ②市内に伝承されている郷土芸能の自立的、安定的な継承を促す。			
事業の成果			
①講師派遣を13回行ったほか、市内のイベントや施設での展示に参画し、日常的に行ってきた文化財調査・保存事業の成果を還元することができた。 ②谷ノ上横穴墓の解説パンフレットや文化財散策マップを刊行し、文化財に関する最新情報を提供することができた。 ②補助金の交付対象となる郷土芸能の保持団体を精査したことにより、効率的に補助金を運用することができた。			

事業の課題					
①文化財所蔵企業の意向や、文化財所蔵者の世代交代により、文化財保護をめぐる環境が変化しつつあり、文化財保護意識の高揚を図るとともに、新たな文化財保護のあり方を検討する必要がある。 ②今後は文化財に無関心な市民へ働きかけ、文化財に対する関心を高める必要がある。 ③無形文化財の保持団体に対して、公開の機会の提供など、補助金以外の方法による支援方法を検討する必要がある。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	4	4	17	A
文化財の調査は時間と労力を要するものであるが、市民のネットワークや他課との連携などにより、限られた職員数で最大限の効果を発揮している。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	入場者数 10,983人
担当課	文化スポーツ課、企画調整課	事業費(円)	13,202,000
事業の名称	「芸術文化の薫るまち日野」事業経費 (◎ 市民会館文化事業協会の充実)		
事業の目的・将来目標			
「芸術文化の薫るまち」が市政のメインテーマに掲げてある。事業を担う日野市市民会館文化事業協会での自主事業や共催事業の充実に向け、企画運営を行う。 市民文化の高揚を図ることは、会館の活性化にもつながっていく。芸術文化の薫るまちを目指し、行政と市民が一体となって事業を運営していくことを目標とする。			
事業の概要			
市民文化の高揚を図るため、日野市市民会館において事業を行う日野市市民会館文化事業協会に対して運営経費補助金を交付する事業である。			
事業の成果			
自主事業は、主に3本(NHKのど自慢・映画祭・薪能)で、それにつながるイベントとしてNHKイベント、おもてなしイベント、薪能子ども講座などを行った。共催事業は、集客力のある大きな事業を効果的に共催できた。また、映画祭・薪能は多摩島しょ子ども体験塾事業として実施している事業であり、東京都市長会からの助成金が補助金の特定財源として充当されている。			

事業の課題					
日野市市民会館文化事業協会として、今後の事業について新しい方向性が問われている。中・長期的な事業の計画や、次につなげる事業の企画・立案、市民企画による事業の実施、共催事業に重点を置いていくなどがあげられている。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	0	15	A
市政のメインテーマ「芸術文化の薫るまち」の展開に向けて、市民会館の活性化を目指した新しい方法を探り、来年以降につながる自主事業や共催事業の充実を図ることができた。今後、継続した事業を進めていくことを目標としていく。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	0	15	A
「芸術文化の薫るまち」は、市の大きなテーマ。市民の芸術・文化に対する満足度を向上させるため、市民参画を得ながら、自主事業や共催事業を行う。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
3	3	3	0	9	C
「芸術文化の薫るまち」とはどのようなまちをいうのか。「薪能」や「第九」が市民の間に定着してきたことは認めるが、芸術文化は本来、市民が主体となって草の根で作り上げていってこそ意味を持つ。市は現在「芸術文化の薫るまち」づくりに向けた計画を策定中とのことであるが、地域力を活かした、ボトムアップで取り組んでいけるようなものにしていただきたい。アーティスト等の発掘も市内全域から幅広く行っていただきたい。基本的に行政は黒子に徹し、市民の活動を側面から支援することに力を注ぐようなかたちにしない限り、真の「芸術文化の薫るまち」創造は不可能だろうし、市民会館や七生公会堂の利用率(稼働率)の向上も困難ではないかと思われる。					

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	事業参加者数 12,378人
担当課	郷土資料館	事業費(円)	11,418,035
事業の名称		郷土資料館運営事業	
事業の目的・将来目標			
郷土資料館として地域に根ざした施設及び事業運営の充実を図る。 郷土資料館としての事業・施設の充実及び出張展示等を地域・学校と連携した事業の発展を目指す。			
事業の概要			
地域の歴史・民俗・自然等の資料を収集・保存・研究・展示することにより、日野文化の継承を図る。			
事業の成果			
資料館まつり他年間を通じた展示・講座・体験学習等多くの事業を実施した。常に新しい資料館PRに努め、今までに資料館を利用したことのない市民を引き込んだ運営を目指した。その結果、講座・出張展示・年間を通じた事業の参加希望者の増を図ることが出来た。			

事業の課題					
事業面では、行動する資料館として、市民の要望を捕らえながら、出張展示等充実を図り、市民に郷土の歴史・民俗・自然等を学習する機会を提供する。当資料館においては、展示・収蔵に関し現状では不十分な面がある。当面は、現状の環境を生かした事業の展開等、多くの市民が参加できる場作りの整備を進めたい。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	4	19	A
事業の増もあり多方面にわたる運営がなされた。来館者、事業参加者の増加を図ることができた。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	
担当課	郷土資料館	事業費(円)	9,670,647
事業の名称	郷土資料館調査研究事業		
事業の目的・将来目標			
学芸員始め、研究員の専門性を生かした調査研究と、その成果の発表(各種展示、郷土資料館紀要の発行)。 歴史・民俗・自然の各分野における資料館の専門性を生かし、資料を調査研究し、その成果を発表することにより日野文化を築く。			
事業の概要			
日野市内に存在する各種資料及び日野に関する資料を調査研究する。			
事業の成果			
企画展「ふるさと日野の自然とくらし」、特別展「幻の真慈悲寺を追う」、特別イベント「幻の真慈悲寺を追う」の開催。郷土資料館紀要の発行。			

事業の課題					
市内の多く残る歴史・民俗・自然資料の調査研究・保存のための場所の確保が必要となる。また、ボランティアの養成等に成果を挙げることが出来てきた。しかしながらマンパワーの確保が必要になっている。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	3	18	A
この事業を継続して行くことは、日野に根ざした文化を築いていく上で必要なものとする。また、調査研究をまとめ、郷土資料館紀要が発行できたことは成果と考えられる。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	延べ活動人数 1,226人
担当課	郷土資料館	事業費(円)	1,878,000
事業の名称		郷土資料館ボランティア活動振興事業	
事業の目的・将来目標			
開かれた資料館作りを進めるにあたり、不足するマンパワーを補う意味において、事業活動に参加できるボランティアを積極的に養成する。 調査研究等資料館活動を行っていくうえでマンパワーが不足している。資料館を開放し、誰でもが参加できる土壌作りを進めるとともに、積極的に資料館事業に参加できる機会を作り出し、開かれた資料館作りを進める。			
事業の概要			
市民からの自主的な働きかけによって、資料館のマンパワー不足を補う。調査活動・展示解説・農具の補修・古文書資料の解説等多様な分野におけるボランティアを育成する。			
事業の成果			
「幻の真慈悲寺」調査研究ボランティアとして市民を養成し、特別展のガイド・現地でのガイド、講座等事業に参加してもらっている。「勝五郎生まれ変わり物語」調査団を編成し、平成21年度特別展に向けて、事業計画に参加してもらっている。また、農機具の補修についても定期的に自主活動をしているグループが生まれ「資料館祭り」に当たっては、エコライフクラブ等の協力を得られている。			

事業の課題

資料館事業の実施については、まだ多くのボランティアの参加が必要となっている。興味を持っている市民をボランティアとして育成・活用するに当たっては、専門的知識、法令の解釈等クリアしなければならない問題もある。

所管部署評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	4	19	A

従来の古文書・民俗調査に加え、真慈悲寺調査ボランティアの育成・活用、勝五郎生まれ変わり物語調査団の編成等着実に成果を上げている。

本部評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

市民評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	
担当課	郷土資料館	事業費(円)	1,166,000
事業の名称	勝五郎生まれ変わり物語探求事業経費 (◎生まれ変わり物語－勝五郎伝承を探る)		
事業の目的・将来目標			
現在までの調査研究の成果から、今後の調査研究の基礎作りをする。 市民研究団体及び関係者との共同で調査研究し、その成果を後世に語り継いで行く。			
事業の概要			
江戸時代に、程久保村の「藤蔵」が中野村の「勝五郎」に生まれかわったというので、話題となった事件。関連地域や情報・資料の収集及び日野の歴史・民俗・自然等を広範囲にわたり調査研究し、その成果を、後世に伝えていく。			
事業の成果			
市民研究団体及び関係者との共同で、関係地域や情報・資料等を収集し、今後の調査研究の基礎作りを行った。この成果を、市民に、地元に伝わる生まれ変わり物語を広く知ってもらおう。			

事業の課題					
全国に関連資料が広がっており、現在までの調査成果を基礎に、今後も地道な調査を行っていく。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	3	18	A
市民研究団体との共同事業を組み、調査研究活動に十分な成果を上げ、調査研究をまとめ、紀要を発行することができた。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	
担当課	郷土資料館	事業費(円)	14,610,622
事業の名称	調査・研究事業経費 (◎幻の真慈悲寺調査)		
事業の目的・将来目標			
出土瓦の整理、測量調査、遺跡探査、発掘調査、文献調査など総合的な調査を実施する。 真慈悲寺の実態を明らかにし、百草地域の自然環境や文化的景観保全につなげ、地域のまちおこしを図る。			
事業の概要			
京王百草園一帯に存在したと想定される寺院(真慈悲寺)について、その実態を明らかにし、多摩の地域史、更には東国中世史の中に学問的に位置づけることを目指す。その作業を市民参加で行ない、地域おこしにもつなげていく。			
事業の成果			
今後の調査研究のため基礎作りとして、地形測量、電波探査、発掘調査、百草観音堂文化財調査を実施した。各資料の文化財としての価値をいっそう明確なものにすることができた。			

事業の課題

文献及び考古学的資料の乏しいなかで、真慈悲寺が存在した場所の特定は困難なものである。市民を交えた地道な調査研究が必要である。市民ボランティアのマンパワーを積極的に活用する。

所管部署評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	3	18	A

文献調査等の実施により、文化財として貴重な資料の発掘等の調査研究をまとめ、紀要を発行できた。真慈悲寺の存在地及び寺院の確定は、今後地道な調査研究が必要と考える。

本部評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

市民評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	観覧者数 2,222人
担当課	郷土資料館	事業費(円)	6,785,516
事業の名称	特別展「幻の真慈悲寺を追う」開催事業経費 (◎特別展「幻の真慈悲寺を追う展」開催)		
事業の目的・将来目標			
現在までの真慈悲寺に関する調査研究の成果を総括し、今後の調査研究の基礎作りと、百草地域の歴史・文化・自然を、まちおこし・観光おこしに生かす。 特別展開催事業については、新選組のふるさと歴史館と連携し、当館を会場として年1回開催の方向で実施する。			
事業の概要			
鎌倉幕府の「御願寺」として関東でも有数の格式を誇った「真慈悲寺」。京王百草園を中心とする地域にあったとされている幻の大寺院に関する調査研究事業の最新の成果を展示。百草園や東電学園内の発掘調査現地見学会も展示の一環として実施する。			
事業の成果			
平成19年9月23日から12月16日にかけて実施した。期間中の観覧者は関連講座を含め約2,300人であった。			

事業の課題					
郷土資料館で実施している企画展以外に実施している特別展である。新選組のふるさと歴史館を会場としているため、同館との連携が必要となっている。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	3	18	A
期間中約2,300人の観覧者が来館した。地域の歴史・文化・自然へ向ける市民の郷土意識を高揚させることができた。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	3	18	A
特別展は2,000人を超える観覧者があり、市民の郷土意識の高揚を図ることができた。今後、調査で得られた史料や成果を旧東電白梅寮などを活用し、展示していく。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	学びによるまちづくりをめざした取り組み	19年度実績	参加者数 4,079人
担当課	図書館	事業費(円)	2,609,000
事業の名称		日野宿発見隊	
事業の目的・将来目標			
日野宿の昭和の時期の写真を収集し、その被写体について、聞き取り等により信頼できる記録を作成する。 町歩き会を行い、日野宿の自然、文化財を記録する。 これらを写真展などにより、市民に公開し、さらに新たな情報の収集を進める。 日野宿の町並み、文化財、昔の様々な出来事等を、将来にわたって利用できるよう写真、録音などに記録し、さらに町おこしにつなげること。			
事業の概要			
日野宿発見隊は日野図書館の呼び掛けで、地元住民・商店会・学校と協働で日野宿の歴史・文化・自然などの再発見と価値を高め次世代へ記録保存していくために結成された。これまで町歩き会や古い写真の収集をしての展示会や昔を語り合う会を開催した。みんなで参加して作る活動は町おこしへとつながり、夏の夕涼み会などまちぐるみの活動になっている。			
事業の成果			
開催事業と参加者数 写真展(5～8月、1～4月)3,786人、町歩き会(11、3月)80人、昔を語り合う会(6、8月)135人、こども発見隊(8月)50人、日野尋常小学校校門礎石発掘(3月)28人 報告書「谷春雄さんを偲ぶ会」、「日野のむかしを語り合おう」、「日野宿発見隊の記録」の3点を作成			

事業の課題					
活動が進むなかで、取り組むべき事柄が次々に広がり、年度当初の予定より、多くの活動ができ、市民に支えられて実現してきた。 若い人・新しく転入してきた人にも広がりがほしい。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	5	20	A
日野図書館の呼び掛けで始まった日野宿発見隊は、日野宿に係る多くの市民による情報提供により進められ、貴重な記録を収集提供し、それが新たな情報提供へと相乗効果を生み出している。 地域に根ざした活動として、日野図書館以外の図書館でもモデルケースとして展開するもので、今後も拡大・充実を進める。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	5	5	19	A
地域参画のまちおこし事業として、マスコミにも取り上げられるなど、大きな成果を残した。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	3	3	0	10	C
くつろげる場の提供や運営手法の見直し等、業態転換にむけた数々の課題が図書館にあることは認める。また「座して待つ」図書館のこれまでの運営スタイルを根本から変えていく必要があることも認めるが、事業的には、郷土資料館や新選組のふるさと歴史館で行った方が良いように思われる。					

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止